

施設の耐久性、安全性、性能の維持の為に構造計算された基礎の検討が必要である。山間部や湿原は頻繁に工事ができず、施設の基礎の長寿命化で工事頻度を減らし、コスト縮減と踏圧による植生への影響を抑える必要がある。

**簡易基礎『ピンファウンデーション工法』**: 厳しい立地条件(山間部、傾斜地、軟弱地盤)と気象条件(凍上、増水、土砂、積雪等)に整備される自然公園等施設(木道、階段等)の基礎を人力施工できる。植生への影響を最小限にでき、厳しさを増す自然災害にも強い。

◆対象: 植物、生態系

◆適応施策: 生態系を維持するための工事手法

Keyword: 自然公園等施設、施設の長寿命化、省施工化、環境負荷の低減

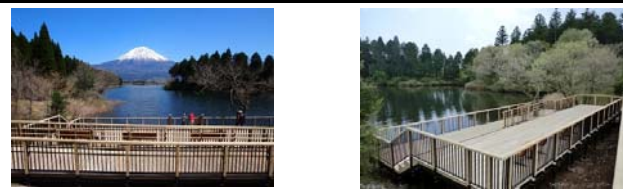
● 国立公園での施工事例

① 軟弱地盤 上信越高原国立公園 万座牛池



N値1.1の軟弱地盤。沈まない木道。

③ 水中工事 富士箱根伊豆国立公園 田貫湖



自然環境を守りたい場所での施工。

② 知床国立公園 知床五湖



重機を使用せず、人力だけで基礎工事。

④ 増水対策 日光国立公園 大沼園地



増水により水没した木道。浮上りしない木道。

● 施工方法

● ピンファウンデーション以外の簡易基礎工法



ダイヤモンドピアをガイドにパイプ4本を人力で土中に打込む。



・ロックファウンデーション

岩盤用の基礎工法。人力施工しかできない、急斜面の岩盤等で使用。



・スリーブパイル

単管杭基礎。地盤がしっかりしている環境で使用。